



吉川三津子議員

生徒の暴力・いじめ問題に本腰を

問 生徒から教師への暴力が、平成25年が19件、26年が13件。校外での対人暴力や、校内の生徒間暴力、器物破損件数が、学校から報告されている(右下表)。

今年度は落ち着いてきたとは聞いてはいるが、教育委員会の見解は。

教育部長 教育委員会は重きことと捉えている。学校との連絡を密にし、解決にあたっている。

問 先生が心を病んだり、子どもが転校せざるを得ない事例を聞いている。しかし、教育委員会議事録には、協議した記録がなく、定期的な学校訪問しかされていない。

市当局に予算要求し、迅速に教師加配などすべきでは。

教育長 現状を訴えて、予算措置を要望する。

問 中学校だけの問題ではない。小学生の頃から不安定な子どもが増えており、小学校、児童クラブなどでの関わりが重要だ。中学校の現状を保護

者のみならず関連機関も共有すべきでは。

教育部長 効果的な連携を求めることは大切だ。学校と共に考えていきたい。

中学校から教育委員会への報告状況

	年度	校数(校)	件数(件)
対教師暴力	平成23	2	7
	24	2	3
	25	2	19
	26	1	13
対人暴力	平成23	0	0
	24	1	1
	25	1	4
生徒間暴力	平成23	1	4
	24	1	8
	25	1	72
器物損壊	平成23	1	8
	24	1	21
	25	2	35
	26	2	19

勝幡駅周辺を子育てモデル地区に

問 愛西市は保育料が安い、保育園待機がない、保健センターの戸別訪問、発達障害対応、6年生までの児童クラブ、病児病後児預かり、産前産後の家事支援、虐待・DV未然防止、すべての小学校区に児童館等設置など他市より子育て施策は充実している。また、勝幡駅、富吉駅は、名古屋まで15〜25分で通勤でき、買い物も便利なのに、市の良さが市民にも浸透していない。

勝幡駅・富吉駅周辺をモデル地区にし、空き家対策をしながら、若者が住むまちをめざしては。

子育て支援プロジェクト担当部長 子育てしやすい、住みやすさを発信すべきとアピール方法を検討中だ。



鷲野聡明議員

企業誘致優遇条例の制定は

問 愛西市が市民の生命と財産を守りながら継続的な発展を目指すには、財政再建と企業誘致が重要なポイントである。いろいろなケースを想定した幅広い魅力のある企業誘致優遇条例が上程される時期が来ているかと思うが、内容と時期などについて尋ねる。

また、これまでに企業からの進出引き合いがあれば、現状について尋ねたい。

経済建設部長 まず区域は、南河田地区の工業団地区域に限定したい。優遇内容では、立地促進奨励金として、土地分を除く固定資産税納付相当額の交付を考えている。また、雇用促進奨励金として、南河田地区の工業団地において新規常用従業員を継続して1年以上雇用した場合に限り奨励金を交付するなどの内容で検討している。時期などについては、分譲開始前の9月議会には上程したい。

市が受けた企業からの引き合いは、平成26年度は15件。平成27年度に入り、5件の問い合わせがあるような状況だ。